

JASDAQ

証券コード：4970



TOYO GOSEI

第63期 報告書

平成24年4月1日 ▶ 平成25年3月31日



東洋合成工業株式会社

<http://www.toyogosei.co.jp/>

● ご挨拶

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

日本経済は、為替はアベノミクスにより極端な円高状態から円安傾向に戻りつつあり、輸出条件や金融市場が大きく改善する一方、電気料金の値上げや輸入原材料費用の増加など、日本の製造業には新たな課題が顕著化しております。そのため、マクロ経済の先行きに明るさは見えるものの、まだまだ楽観できない状況であります。

平成25年3月期、当社グループの感光材事業は、スマートフォンやタブレット端末など、より高精細な表示性能が要求される電子機器の需要が拡大し、高価格品を中心に需要が伸張しました。エネルギー事業は車載用途向け電解液の需要が伸張しており、さらに拡大するものと見込んでおります。また香料材料事業は、第1四半期に香料工場が竣工し第4四半期以降のアベノミクスによる円安の追い風を受け売上高は伸張しましたが、新工場の償却負担の増加により利益を押し下げる結果となりました。グリーンケミカル事業については、電気・電子市場の不況の影響を受け、利益は伸び悩みました。ロジスティック事業は、お客様満足度の維持・向上に努めた結果、タンク契約率を高水準で保っており、高い利益率を確保しております。

このような環境の中、当社は今年4月に竣工した淡路工場を西日本地区の基幹拠点として位置づけ、電気・電子機器及び電池材料向けの溶剤需要を積極的に取り込み、西日本地区での需要を開拓すべく邁進しております。



代表取締役社長
木村 有仁

今期予想に当たっては、円安による輸出条件の好転が見込まれる一方、輸入原材料及び原油由来の国内調達原材料の値上げが予想されます。加えて当社では、①昨年竣工した香料工場の償却負担の増加、②平成25年4月に稼働開始した淡路工場の償却負担の増加、③今後の企業規模拡大に向けた採用などにより、今期予想は売上高16,000百万円(前期比+1,858百万円、+13.14%)、営業利益△200百万円(前期比△471百万円)、経常利益△100百万円(前期比△235百万円)、当期純利益30百万円(前期比△13百万円、△30.66%)、無配と見込んでおります。

今期、積極的な事業拡大を展開する中で、一旦収益が苦しくなることが予想されますが、積極的な営業展開を通して投資プランの結実、結果としての収益の拡大に努め、来期以降の成長に向けた展開を加速して参ります。今後とも皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

● 当期の経営成績

当期の世界経済は、中国を始めとするアジア経済の成長鈍化に加え、欧州経済も債務問題により停滞が長期化の様相を呈しました。米国では景気に底堅さが見られるものの、雇用のミスマッチ等の問題もあり、回復基調が磐石とは言い難い状況にあります。全体としては、年度末にかけやや明るさが見えたものの、景気の行き先に不安を残す展開となりました。

日本経済は、為替はアベノミクスにより極端な円高状態から円安傾向に戻りつつあり、輸出条件や金融市場が大きく改善する一方、電気料金の値上げや輸入原材料費用の増加など、日本の製造業には新たな課題が顕著化しております。そのため、マクロ経済の先行きに明るさは見えるものの、まだまだ楽観できない状況であります。当社グループの主要関連業界であるエレクトロニクス業界は、高精細な表示技術を必要とするスマートフォンやタブレット端末が日本国内のみならず世界的に普及する中で、高度な技術が以前にも増して必要とされるようになりました。

このような状況の中、当社グループはお客様との関係強化に努め、お客様のニーズに応えるべく新製品の開発や既存製品の拡販に取り組んだ結果、当期の売上高は、14,141百万円（前期比+189百万円、+1.4%）となりました。損益面では、期末にかけ急激な円安による増収効果はあったものの、期中の大半が円高であったこと、期央の新工場稼働に伴う償却負担の上昇により、営業利益は271百万円（前期比△369百万円、△57.6%）、経常利益は135百万円（前期比△389百万円、△74.2%）、当期純利益は43百万円（前期比△341百万円、△88.8%）となりました。

● 次期の見通し

今後、世界経済は依然として成長を阻害する不安要因を抱える状況が続くほか、日本経済においては円安による景気回復が期待されます。その一方、輸入原料高を背景とした物価高による個人消費の伸び悩みや電力料金の値上げ等により、企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

汎用化学品業界は、円安や中東諸国の政情不安に起因した原燃料価格の上昇等が懸念されることから、今後も楽観を許さない状況が続くものと予想されます。

このような見通しの下、当社グループは厳しい経営環境下においても収益を生み出す事業体質の定着化を目指し、主に下記の施策に取り組んで参ります。

- ① 本社・営業部門の機能集約を通じて、意思決定スピードを速め、事業戦略の立案・展開を強化する。
- ② 営業・研究部門・生産現場の連携を強め、お客様との関係強化と拡販に努めるとともに、新たな需要を開拓する。
- ③ 生産性の更なる向上とコスト削減活動を推進し、競争力を育成する。

特に、新たに稼働した香料工場及び淡路工場については、その投資回収に努め、当社の収益基盤をより強固なものにするため、営業・研究開発・本部が一体として支援して行く体制の強化に邁進して参ります。

● 次期の連結業績見通し（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

売上高	16,000百万円
営業利益	△ 200百万円
経常利益	△ 100百万円
当期純利益	30百万円

売上高	14,141	百万円	前期比 1.4%増
営業利益	271	百万円	前期比 57.6%減
経常利益	135	百万円	前期比 74.2%減
当期純利益	43	百万円	前期比 88.8%減

■ 当期 (平成25年3月期) のポイント

- POINT 1 スマートフォンやタブレット端末の普及に伴う、高付加価値商品により感光材の売上が増加
- POINT 2 第4四半期以降、極端な円高から円安傾向に転じ、期初見込みよりも利益額が伸張
- POINT 3 香料材料部門は円安の追い風を受けたが、香料工場の償却負担により、利益を圧迫

貸借対照表ハイライト (連結)


(単位：千円)

科目	前期末 平成24年3月31日	当期末 平成25年3月31日
流動資産	9,960,581	9,824,733
固定資産	16,659,309	19,943,339
資産合計	26,619,890	29,768,072
流動負債	12,645,499	12,807,562
固定負債	7,418,319	10,390,390
負債合計	20,063,818	23,197,953
純資産	6,556,071	6,570,119
総資産	26,619,890	29,768,072

収益性指標ハイライト (連結)

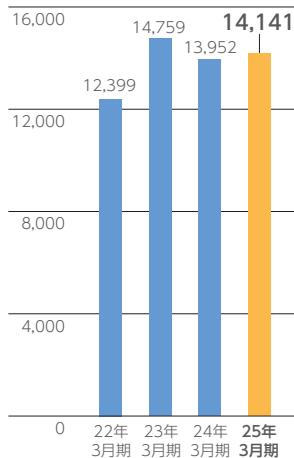
(単位：千円)

科目	前期 自平成23年4月1日 至平成24年3月31日	当期 自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高	13,952,115	14,141,495
営業利益	641,433	271,673
経常利益	524,841	135,520
当期純利益	384,916	43,262
フリーキャッシュフロー	△1,396,246	△3,661,288

より詳細な情報につきましては、当社WEBサイトをご参照願います。➔ <http://www.toyogosei.co.jp/> 

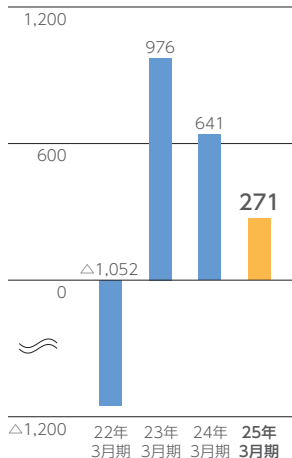
売上高

(単位：百万円)



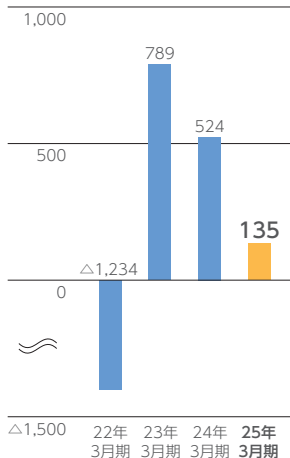
営業利益

(単位：百万円)



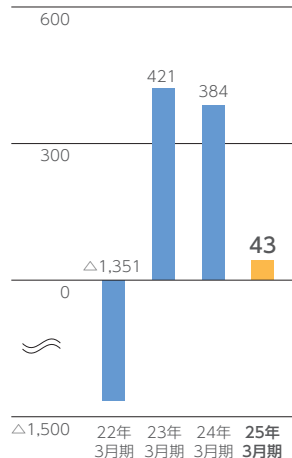
経常利益

(単位：百万円)



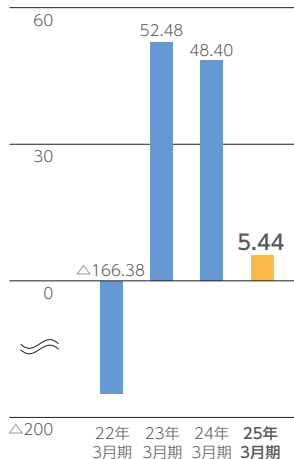
当期純利益

(単位：百万円)



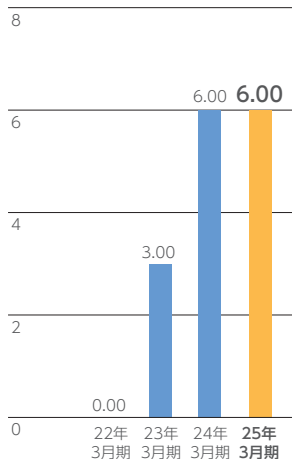
1株当たり当期純利益

(単位：円)



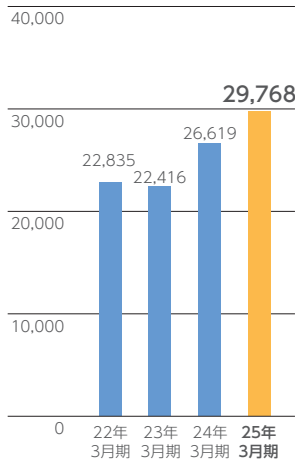
1株当たり配当金

(単位：円)



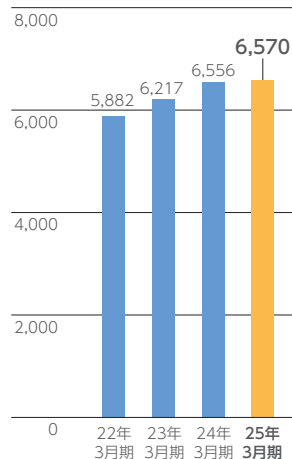
総資産

(単位：百万円)



純資産

(単位：百万円)





4月に操業を開始した淡路工場をご紹介します。

当社はかねてより淡路工場（所在地：兵庫県淡路市）の建設を進めておりましたが、平成25年4月8日に竣工式をとりおこないました。

ここで、淡路工場をご紹介します。



グリーンケミカル事業で 電子・電池材料の溶剤を生産

淡路工場は、津名生穂地区産業用地内に建設されました。約5万㎡の敷地には、月産3,000トンの処理能力を持つ3基の蒸留塔や10基のタンク、充填所及び事務棟などを備えております。

リチウムイオン電池、半導体及びICなどの電子材料を製造する工程で使用される高純度溶剤の製造及び精製を行います。

西日本エリアの大手電子・電機メーカーの 需要を取り込み

従前、このような高純度溶剤は、市川工場（所在地：千葉県市川市）で製造されていましたが、西日本に多く存在する電



子材料メーカー様からの需要が高まりました。

中でも、大阪湾岸のベイエリア地域には既存のお取引先様が多く、今後中国・四国地方をにらんだ営業戦略を展開するためにも兵庫県淡路市の産業用地を選定しました。



● 淡路工場概要

所在地	兵庫県 淡路市 生穂新島
敷地面積	50,500㎡
設備	蒸留塔3基、タンク10基、充填所、事務棟など
生産能力	月産3,000トン
総工事費用	18.5億円(ただし土地取得費用除く)

環境や安全に配慮した設備

淡路工場では特に環境や安全に配慮した操業とすべく様々な工夫を凝らしております。

例えば、蒸留塔を動かす動力源としてLNGを採用することでCO₂排出を低減しております。

また、ソーラーパネルを設置し、事務棟で使用される電力の一部を賄っております。

安全面では、今後発生が予想される東南海地震による津波に対応できるよう高さ5メートルの防潮堤を備えております。

現在、お客様で評価いただくためのパイロット製品の製造に取り組んでおり、今夏本格的な稼働を行います。

株主の皆様を始め地域社会に貢献する操業を行って参りますので、今後の淡路工場の動向にご期待ください。

セグメント別の概況 SEGMENT INFORMATION

感光性材料事業

売上高

7,473 百万円

前期比 9.5%増 

営業
損失

6 百万円

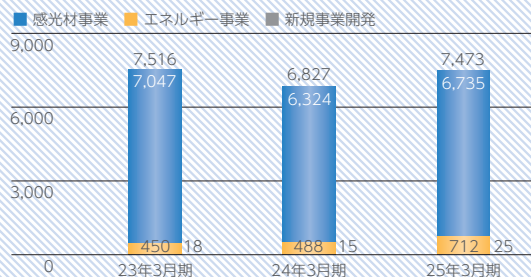
前期は58百万円

業績の概況

半導体向け感光性材料は、スマートフォンやタブレット端末など電子機器の拡大が進み、高価格品を中心に需要が伸張しました。液晶用途向け感光性材料は、液晶テレビや液晶ディスプレイなどの価格が下落しており、低調に推移しました。また、電解液・イオン液体においては、車載用途向け電解液の需要が伸張しており、継続して需要開拓を進めております。以上の結果、売上高は7,473百万円(前期比+645百万円、+9.5%)となりました。

売上高の推移

(単位：百万円)



感光材事業

Photosensitive Materials

スマートフォン、携帯電話や液晶テレビに使われる半導体の製造を支えています

感光材は、液晶テレビや半導体の製造工程で使用される微細構造を形成する材料であるフォトレジストの原材料になります(フォトレジストとは、感光材と溶剤等から作られます)。当社の感光材は高性能かつ高品質の製品として高い評価をいただいております。世界トップクラスのメーカーとして高いシェアを有しております。また、次世代型感光材の研究開発にも積極的に取り組んでおります。

| 所在地 | 千葉工場(千葉県香取郡東庄町)



エネルギー事業

Energy

燃費の向上やCO₂削減に寄与する未来の液体

近年の省エネルギー化の推進を背景に、建機、港湾クレーン、風力発電機の補助電源として電気二重層キャパシタの搭載が進んでおります。当社では、この電気二重層キャパシタ用の電解液及びイオン液体の製造販売を行っております。イオン液体の使用は多くの分野で研究されており、環境負荷の少ないグリーンケミストリー用反応溶媒や安全で高性能な次世代電解質としての活用が望まれています。また、フォトレジスト用現像液TMAHの製造販売も行っております。

| 所在地 | 千葉工場(千葉県香取郡東庄町)



新規事業開発

R & D

ナノテク分野等の研究開発

ナノテク分野では、UVナノインプリント専用の樹脂を世界で初めて発売しました。ナノインプリントは、他の微細加工技術では困難な大面積加工が可能のため、次世代型加工技術として注目されています。

| 所在地 | 感光材研究所(千葉県印西市若萩)

化成品事業

売上高

6,668 百万円

前期比 6.4%減

営業利益

277 百万円

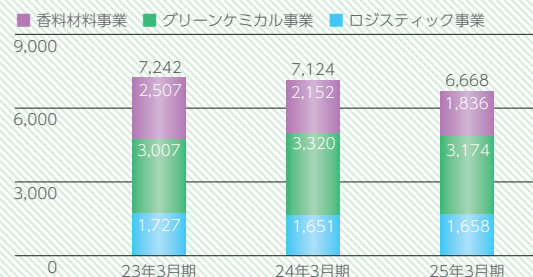
前期比 60.3%減

業績の概況

香料材料部門は、第1四半期で竣工した香料工場の減価償却負担が利益を押し下げました。また、グリーンケミカル部門は、国内半導体市場の不況や、原油高の影響を受け、やや低迷する結果となりました。一方、ロジスティック部門は、タンク契約率を高水準で維持することができ、高い利益率を確保しております。以上の結果、売上高は6,668百万円(前期比△455百万円、△6.4%)となりました。

売上高の推移

(単位：百万円)



香料材料事業
Flavor and Fragrance

世界に広がる香りの素をつくる

食品(フレーバー)や化粧品(フレグランス)製品の単品香料を作っているのが、香料材料事業部です。食品や化粧品の香りは、何十種類もの単品香料を香料会社で調合し、一つの香りが作られています。当社ではその香りの素となる単品香料を世界各国の大手香料会社に販売しております。当社の単品香料は、香料として一番重要な“匂い”の安定性を特徴としており、国内外へ幅広く販売しております。

所在地 | 香料工場(千葉県香取郡東庄町)
市川工場(千葉県市川市上妙典)



グリーンケミカル事業
Green Chemicals

地球温暖化、
大気・水質汚染問題解決に貢献

有機溶剤は、電子・電気部品、自動車、製薬等の広範囲な分野で使用されており、使用後の廃溶剤の多くは再利用されることなく、大気への放出または燃焼処理が行われていました。当社では、お客様から使用済み廃溶剤を引き取り、蒸留・精製を行うことで新品同様に蘇らせております。当社は、特に高度な蒸留・精製技術が求められる半導体などの電子部品材料用溶剤のリサイクルで高い実績を誇っております。

所在地 | 市川工場(千葉県市川市上妙典)
淡路工場(兵庫県淡路市生穂新島)



ロジスティック事業
Logistics

月間200隻の船舶と
3,000台のローリーに対応

高浜油槽所において、大手石油化学メーカーや商社の液体化学品を船舶で受け入れ、一時保管し、タンクローリーで関東各地のお客様へ配送を行っております。受け入れ船舶は月間200隻、ローリーでは3,000台の出荷に対応できます。また、化学品メーカーとして長年培ってきた化学品の取り扱い、管理、分析の技術と最新の設備により、安全かつ環境にも配慮した万全の物流体制を整えております。

所在地 | 高浜油槽所(千葉県市川市高浜町)

会社の概要

商号	東洋合成工業株式会社														
本店所在地	千葉県市川市上妙典1603番地														
本社 (本社及び 営業部門)	東京都台東区浅草橋1丁目22番16号 ヒューリック浅草橋ビル8階 ※本年6月1日に上記へ移転しました。														
設立	昭和29年9月27日														
資本金	1,618,888,703円														
従業員数	589名														
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機工業薬品・有機溶剤等の製造並びに販売 2. 画像形成用の感光性材料等の製造並びに販売 3. 電子表示機器の材料等の開発、製造並びに販売 4. 電池材料並びに電気二重層材料等の研究開発、製造並びに販売 5. 酵素蛋白、細胞を特定形状化するための感光性樹脂の研究開発、応用品の製造並びに販売 6. 化学機械・装置(反应用機器、蒸留塔、抽出器、濾過器、乾燥機等)の設計、製作並びに設置工事 7. 前各号に掲げる物品の輸出及び輸入 8. 倉庫業 9. 貨物運送取扱業 10. 前各号に付帯関連する一切の事業 														
事業所	<table border="0"> <tr> <td>千葉工場</td> <td>千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号</td> </tr> <tr> <td>香料工場</td> <td>千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号</td> </tr> <tr> <td>市川工場</td> <td>千葉県市川市上妙典1603番地</td> </tr> <tr> <td>淡路工場</td> <td>兵庫県淡路市生穂新島9番1</td> </tr> <tr> <td>高浜油槽所</td> <td>千葉県市川市高浜町7番地</td> </tr> <tr> <td>感光材研究所</td> <td>千葉県印西市若萩4丁目2番1号</td> </tr> <tr> <td>西日本営業所</td> <td>大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番45号</td> </tr> </table>	千葉工場	千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号	香料工場	千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号	市川工場	千葉県市川市上妙典1603番地	淡路工場	兵庫県淡路市生穂新島9番1	高浜油槽所	千葉県市川市高浜町7番地	感光材研究所	千葉県印西市若萩4丁目2番1号	西日本営業所	大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番45号
千葉工場	千葉県香取郡東庄町宮野台1番51号														
香料工場	千葉県香取郡東庄町宮野台1番58号														
市川工場	千葉県市川市上妙典1603番地														
淡路工場	兵庫県淡路市生穂新島9番1														
高浜油槽所	千葉県市川市高浜町7番地														
感光材研究所	千葉県印西市若萩4丁目2番1号														
西日本営業所	大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番45号														
関係会社	株式会社トランスパレント TG Finetech Inc.														

役員 (平成25年6月20日現在)

代表取締役会長	木村 正輝
代表取締役社長	木村 有仁
専務取締役	川村 繁夫
取締役	渡辺 宏一
	出来 彰
	島川 優
	金子 順一
監査役	伊藤 衛
	萩原 正一
	宮崎 誠
	本間 達三

ネットワーク



株式の状況

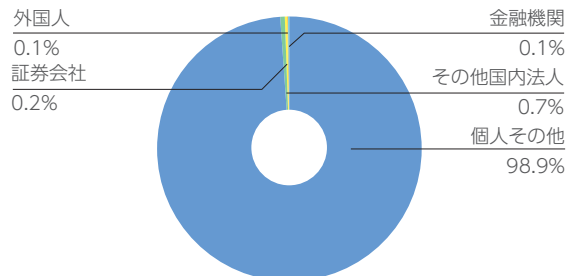
発行可能株式総数	30,000,000株
発行済株式総数	8,143,390株
株主数	9,021名

大株主

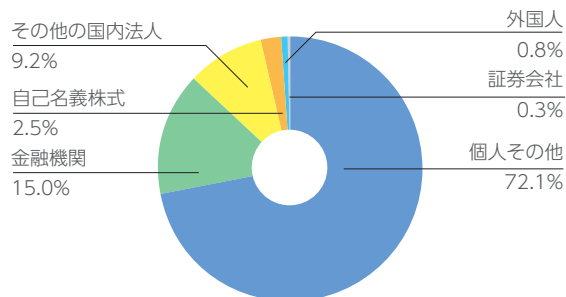
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 正輝	1,437	18.10
木村 有仁	394	4.97
木村 愛理	383	4.82
(株)千葉銀行	298	3.75
(株)東京都民銀行	298	3.75
あいおいニッセイ同和損害保険(株)	248	3.13
東洋合成工業社員持株会	200	2.52
(株)TGホールディング	200	2.51
(学)早稲田大学	200	2.51
片岡 文子	163	2.05

当社は、自己株式を205千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式（205千株）を控除して計算しております。

株主の分布状況



株式の分布状況



株主優待

毎年3月31日現在において、株主名簿に記載のある500株以上の株式を所有されている株主様に、下記のご優待をご用意しております。

株数

500株以上

優待品

3,000円相当の千葉県・兵庫県特産品

平成25年3月期末株主様へは、千葉県の誇るブランド米である千葉県香取郡多古町産コシヒカリ5kgと、お味噌及び兵庫県淡路島産焼き海苔のセットを、6月上旬～下旬にかけて贈呈いたしました。



ホームページのご紹介

当社は、事業運営状況や投資家向けの情報公開をするにあたり、WEBを主要な手段の一つだと考えております。当社WEBサイトでは、最新情報を随時更新しておりますので、是非ご覧ください。

<http://www.toyogosei.co.jp/>



トップページ



IR情報

● 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬
剰余金の配当の基準日	3月31日 中間配当を実施するときは 9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
単元株式数	100株
公告方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.toyogosei.co.jp/ir/epr.html ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式の諸手続き	口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。 特別口座をご利用の株主様は、みずほ信託銀行株式会社0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

東洋合成工業株式会社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
ヒューリック浅草橋ビル8階
TEL 03-6891-4970 FAX 03-6891-4980
E-mail : ir@toyogosei.co.jp

